

柏崎刈羽原子力発電所 6,7 号炉 ヒアリング資料	
資料番号	KK67-地 0109-6

平成 29 年 6 月 13 日

東京電力ホールディングス (株)

白河火砕流堆積物群について

1. 白河火砕流群の給源について

- 第四紀噴火・貫入活動データベース (2014)¹⁾によれば、塔のへつりカルデラ群が白河火砕流群の給源とされている。

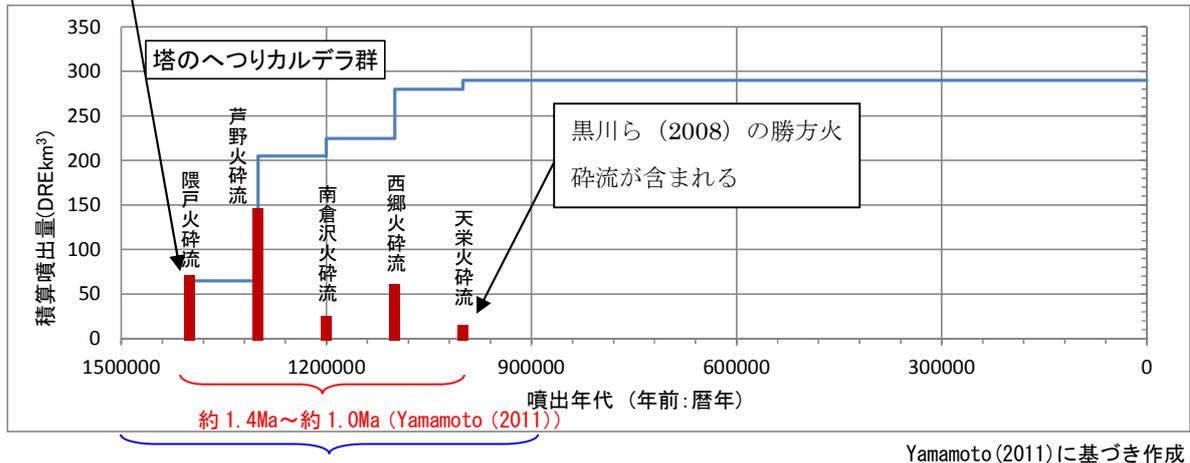
2. 鈴木ほか (2017) で示される 6 枚の火砕流堆積物群について

- 東京電力が、塔のへつりカルデラ群の活動履歴の参考文献としている Yamamoto (2011)²⁾には、5つの火砕流堆積物(隈戸, 芦野, 南倉沢, 西郷, 天栄)が示されている。
- 鈴木ほか (2017)³⁾には、6つの火砕流堆積物(隈戸, 赤井, 芦野, 西郷, 勝方, 天栄)が示されている。
- Yamamoto (2011) と鈴木ほか (2017) では、4つの火砕流堆積物(隈戸, 芦野, 西郷, 天栄)が重複して示されている。
- 一方、黒川ほか (2008)⁴⁾では、山元ほか (2005)⁵⁾が天栄火砕流堆積物に対比している露頭(会津坂下町勝方西方林道脇のダム周辺)を勝方火砕流堆積物と仮称している。
- また、村田・鈴木 (2011)⁶⁾では、山元ほか (2005)により隈戸火砕流堆積物とされた会津若松市赤井における火砕流堆積物を赤井火砕流堆積物として新たに記載している。
- 以上のことから、白河火砕流堆積物群の区分に関する見解は異なるものの、いずれも同じ火砕流堆積物群について、検討しているものと考えられる。

3. 塔のへつりカルデラ群の活動履歴について

- 東京電力が Yamamoto (2011) に基づいて整理した塔のへつりカルデラ群の活動履歴には、上記の通り赤井, 勝方の火砕流堆積物も含まれるものと考えられ、その活動年代は、隈戸～天栄まで約 1.4Ma～約 1.0Ma と評価している(第 1 図参照)。
- 一方、鈴木ほか (2017)では、白河火砕流堆積物群の活動年代は隈戸～勝方まで約 1.5Ma～約 0.9Ma とされている。
- 仮に鈴木ほか (2017)による活動年代を考慮したとしても、塔のへつりカルデラ群に関するこれまでの評価「全活動期間よりも最新活動からの経過期間が長いことから、将来の活動可能性はない。」に影響はないと判断される。

村田・鈴木（2011）の
赤井火砕流が含まれる



Yamamoto (2011) に基づき作成

約 1.5Ma ~ 約 0.9Ma (鈴木ほか (2017))

第 1 図 塔のへつりカルデラ群の階段噴火図

参考文献

- 1) 西来 邦章・伊藤 順一・上野 龍之・内藤 一樹・塚本 斉(2014):第四紀噴火・貫入活動データベース Ver. 1.00 .
- 2) Yamamoto, Takahiro. (2011): Origin of the sequential Shirakawa ignimbrite magmas from the Aizu caldera cluster, northeast Japan: Evidence for renewal of magma system involving a crustal hot zone, *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, Volume 204, Issue 1, PP. 91-106.
- 3) 鈴木 毅彦・村田 昌則・水野 清秀・石原 武志(2017):白河火砕流堆積物群およびそれに伴う降下火山灰の層序・対比に関する再検討, *日本地球惑星科学連合大会予稿集*, SVC50-17.
- 4) 黒川 勝巳・横田 憲一・川崎 裕子・酒井 健志・森川 一章・平中 宏典(2008):新潟地域の魚沼ピンクテフラ層の広域対比の検討, *新潟大学教育人間科学部紀要*, 第 10 巻, 第 2 号, PP. 63-82.
- 5) 山元 孝弘・吉岡 敏和・牧野 雅彦・住田 達哉(2005):喜多方地域の地質. *地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅)*, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 6) 村田 昌則・鈴木 毅彦(2011):銚子地域犬吠層群小浜層中の前期更新世テフラとの対比に基づく白河火砕流堆積物群の層序の再検討, *第四紀研究*, 50-1, PP. 49-60.